

11月8日の「西春別学校区閉園・閉校記念式典」では、学校に保管していたアルバムを展示します。



別海町立西春別中学校 学校だより 第8号 令和7年10月31日発行 発行責任者 校長 綾野正巳

まさに 最終楽笑

西春別中学校長 綾野 正巳

秋が深まり、校庭の木々が色づき始めたこの頃、今年度の文化祭が盛大に開催されました。今年のテーマは「Period.～最終楽笑～」。この言葉には、「今年度で閉校を迎える西春別中学校最後の文化祭を、笑顔で、楽しく、心に残るものにしたい」という生徒たちの強い思いが込められていました。そして、そのテーマ通り、文化祭は笑顔と感動に満ちた、まさに有終の美を飾る一日となりました。

開会式では、生徒会が中心となって企画・運営を行い、映像やインタビュー形式を取り入れたアイディアあふれる演出で会場の雰囲気を一気に盛り上げました。ユーモアと工夫に満ちた企画は参加者の心をつかみ、文化祭の幕開けにふさわしい華やかなスタートとなりました。生徒会の皆さんの準備と努力に、心から拍手を送りたいと思います。

職場体験発表では、生徒たちが地域の方々と関わりながら学んだことを、自分の言葉で丁寧に伝えました。働くことの意義や社会とのつながりを考える貴重な機会となり、聴衆にも深い感銘と学びをもたらしました。発表の中には、感謝の気持ちや将来への希望が込められており、生徒たちの成長を感じる瞬間でもありました。

全校合唱では、12名という少人数ながらも、息の合った美しいハーモニーが体育館いっぱいに響き渡りました。一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たし、互いに支え合いながら創り上げた歌声は、聴く人の心を深く揺さぶるものでした。人数の多寡ではなく、心をひとつにするこの大切さを改めて教えてくれる、感動的な合唱でした。

劇の発表も見事でした。脚本、演出、演技、舞台装飾に至るまで、生徒たちの創意工夫が随所に光り、観客を物語の世界へと引き込みました。限られた時間と人数の中で、ここまで完成度の高い舞台を作り上げたことは、生徒たちの努力と協力の賜物です。笑いあり、涙ありの展開は、まさに「楽笑」の名にふさわしいものでした。

文化祭の締めくくりとなった閉会式では、3年生5人による挨拶が行われました。それぞれが自分の言葉で、仲間への感謝や中学校生活の思い出を語り、会場全体が温かな余韻に包まれました。その姿は、これまでの歩みを振り返りながら、次のステージへと向かう力強い一歩を感じさせるものでした。

この文化祭は、まさに「Period.～最終楽笑～」のテーマ通り、生徒たちが自分の力を最大限に発揮し、仲間とともに創り上げた最高の時間でした。一人ひとりが主役となり、互いを尊重し合いながら協力する姿は、私たち教職員にとっても大きな感動と誇りです。

当日は、来賓として教育長にもご臨席いただきましたが、生徒たちの真剣な姿と心のこもった発表の数々に、深く感動されていました。

生徒の皆さん、本当にありがとうございました。そして、日頃より温かく見守り、支えてくださっている保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。これからも、生徒たちが自分らしく輝ける場を大切にしながら、学校全体でその成長を支えてまいります。